

JID NEWS

2003
No.222

目次

●創作デザインの寄託制度 について	1
●[JID] 賞の見直し	2
●平成 15 年度第 2 回理事会報告	3
●JID NEWS 関東	7
●JID NEWS 中部	9
●JID NEWS 関西	10

本部デザイン保護委員会

委員 泉 修二

創作デザインに関して、意匠権取得までの空白期間やクライアントに対する商品化以外のデザインの扱い、或いは意匠権や著作権にも属さないインテリアデザインなど、現在の日本のデザイナーは様々な問題を抱えている。これらの問題を解決するべき有効な一つの手段として、特許庁の工業所有権登録とは別に、創作時点に近い段階で保護する活動が（社）日本デザイン保護協会で制度化され、進められている。

この創作デザインの保護活動に関して、我々 JID が所属する日本デザイン団体協議会・デザイン保護研究会は去る7月24日のデザイン保護協会の説明会を始めとして数回研究会を行った。保護協会の事業は創作デザインの保護を根幹に置く幅広さを盛っているが、主な事業である①創作デザインの寄託、②カタログ等の寄託、③意匠公開情報の三項が討議の中心であった。この結果を9月の JID 理事会にも検討をお願いし、対処に対して現状での結論を得た。則ち、デザイン団体協議会・保護研究会としては、当面は構成各団体の自由な対処にまかせ、研究討議は継続するという結論に加え、JID 理事会は「未研究の部分があるため、団体として動くことは控えざるを得ない状況にある。しかし、重要さの点から会員各位にお知らせする」ことを決定した。幸い、保護協会からパンフレットを頂けることになったので同封し、この報告ではパンフに表れないメリットや研究課題の理解補足を主にすることにした。以下の項目は保護協会の回答を基本にしているので、パンフ読了後に一覧されることを希望する。

○ 加入および入会費：会員は法人だけであり、年会費は一口10万円2口以上である。

○ 寄託について：

- * 寄託料金は現在1件1500円だが、会員は半額になる。
- * 寄託の受け付け方法は郵送でも良いが、其の場合の受付日は到着日となる。
- * 寄託料金1件は1デザインではなく、例えばペットボトルの色違い程度は一件とする。
- * 寄託できるデザイン分野は問わない。現在寄託されている分野にはディスプレイ建築、公園などもあり、店舗などのインテリアデザインも可能。
- * コンセプトデザインも寄託できる。言葉によるものは申請用紙に説明欄がある。

7 | 8 | 9 |

＊ 寄託の事実をデザイン画等に記載することは構わない。

○ 寄託と他の方法との相違：

＊ 意匠公開情報との違いは、公開情報は公開するだけで寄託証明は発行されず、寄託機能はない。寄託は原則秘密であり、希望者のみ公開準備中である。

＊ 公証役場の日付け証明は1件1万円程掛かるのが、この制度との違いだ。

○ 意匠権調査：調査依頼のある場合は意匠権の保護期間15年を基準にした過去15年間にわたって調査する。ちなみに、特許庁の調査は明治期まで遡る。

○ 既に寄託された件数についての質問には「多数あり、産デ振のGマーク商品の寄託も自動的に行われている」との回答があった。また、なるべく多くの人に使って貰えるよう改善し、表示方法についても検討するとの言葉も頂いた。

保護協会のパンフと上記の回答項目によってある程度理解されるように、デザイン寄託によって、

○著作権の持つ「創作時点での保護」に近い意味を持つ証明が可能になり、いはゆる意匠登録までの空白期間を埋めることができる。

○力関係上、クライアントとの契約では難しい商品化以外のアイデア案も寄託できることになる。

○有効性は未定だが、インテリアデザインに関して少なくとも創作の証明は寄託と同時点で可能になるなどの利点が考えられよう。特に、特別なデザイナーを除き一般的には難しいクライアントにデザインを見せるだけで契約書にサインを貰うことの不可能性や、決定されたデザイン以外には対象に成り難いバリエーションの保護などに有効性があるろう。しかし、著作権と違い、登録費用は必要である。デザイナーにとって総てのデザインを登録することには経済的、社会的問題も残るだろう。

この活動は、現在の規約ではあくまで法人デザイン企業個々が対象であり、団体としての、或いはフリーのデザイナーのメリットはあまり無い。日本グラフィックデザイナー協会が退会したのも、協会自体が寄託するものは現状では皆無であり、保護協会からの情報も年一、二回程度に過ぎないことが理由だったと伝えられる。これからの研究課題である。

我々デザイン団体協議会・デザイン保護研究会はデザインの著作権取得の活動を続けているが、今年の経産省を経由しての意見答申は見送られた。このような段階での寄託制度は大きな利点の一つであろう。

付記：討議の中心になったデザイン物件の寄託問題以外に、保護協会の活動としては

- デザイン関係資料の収集・加工・提供（出願事前審査、早期審査の申出に関する先行意匠調査サービス、資料閲覧など）
 - 調査・研究（判決や保護制度運用など）
 - デザインの保護および利用に関する指導・相談（弁護士資格者、意匠事務経験者によって平日のAM10時からPM5時まで対応）
 - デザイン紛争に関する斡旋・調停・仲裁、
 - 講習会開催・図書刊行物の発行、
 - デザイン保護機関業務の連絡調整
 - 行政施策への協力
- などの活動によって構成されている。

[JID 賞] の見直し

中間報告

選考委員会委員
森谷 延周

(1) 検討の経緯

前号の JID NEWS で岩倉委員長が述べたように、諸般の事由から「2003年 JID 賞」の実施を休止し、今年度は [JID 賞] を全体的に見直す検討の年とした。（平成15年5月開催の第35回通常総会承認）

そしてその検討のための選考委員会を、その重要度から木村理事長の出席を得て、去る6月25日、7月30日、9月13日に開催した。

以下は、選考委員会が平成15年第2回理事会（9月27日開催）に示した [JID 賞] の今後のあり方について（案）の概要である。

(2) 事業としての [JID 賞]

JID の定款に沿って行われる顕彰事業としての [JID 賞] は、その取組み方次第では、JID そのものの存在や力量をアピールするにふさわしいもので、「最重要事業」として位置付けられてよい。

(3) [JID 賞] の目的

インテリアデザイナーや関連する企業・組織の優れた活動成果を表彰することにより、日本のインテリアデ

ザインの質的向上とインテリアデザイナーの職能の向上とを促進するとともに、豊かな社会と文化の発展に寄与しようとするもの。

(4) 賞と審査対象

1. 一定の年齢制限（満35才）のもとで、インテリアデザイン界の登竜門としての「新人賞」を新たに加える。応募対象は現行の3部門。
2. 2005年「JID賞」は（2003年休止のため）、原則として2002年7月1日～2005年6月末日までに完成、発表されたものとする。

(5) 審査方法

現行の審査は選考委員を主体としたもので外部からの応募審査以外は、ややもすると内輪の審査といった弊害を招きかねない。今後は選考委員の役割を改め、すべての最終審査は、ふさわしい能力や知名度をそなえた外部審査員（JID理事長を含む）に公正な審査をゆだねる。

(6) 「JID賞」のPR

応募のためのPR不足を補うため「パブリシティの実施」「ポスターの制作・配布」など、ふさわしい有効な手段を取り入れる。

(7) 関わる経費の財政措置

上記のPR、外部審査員の委嘱、リーフレットや賞×のデザイン・製作、受賞作品展などの経費負担や質的充実のために、それにふさわしい財政措置を必要とする。

(8) 検討を行ったその他の事柄

1. 選考委員の選挙規定の明確化（委員会細則の改訂）
2. 応募要項や応募票の修正
3. 賞罰などデザインワークを伴うものの扱い方
4. 審査以外の活動を担う本部委員会の設置
5. 本部事務局が関わる事務的諸業務
6. 理事会報告の方法

このように検討内容は多岐にわたっているが、今後は次期選考委員の選挙結果を受けて、年内に開催予定の新旧合同の選考委員会場で具体的な爪の作業を行い、今後に備えることとした。

①会議名：平成15年度第2回理事会

②日 時：平成15年9月27日（土）13：30～17：00

③場 所：社団法人日本インテリアデザイナー協会・
OZONE 会議室
東京都新宿区西新宿3-7-1
新宿パークタワー 8F

④出席：（理事長） 木村戦太郎

（副理事長） 阪井良種、佐々木恵子

（理事） 秋山修治、岩倉榮利、川上玲子
吉良ヒロノブ、熊谷正信、
小宮容一、須長壮太郎、森谷延周
山下博之、八十常充、山本棟子

（委任出席） 山永耕平

（監事） 川上信二、中川千年

（事務局） 峰尾 武

Ⅰ 報告事項

- 1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- 2) 平成15年度収支状況報告（8月末現在）
- 3) その他

財務運営資金繰り

（株）リビング・デザインセンター

OZONE 会議室使用料の件

会員名簿作成原稿について

新旧役員合同会議及び第3回理事会日程について

Ⅱ 議題

- 第1号議案 役員選挙における役員選出数決定の件
- 第2号議案 IFI 派遣人事の件
- 第3号議案 後援・協賛名義他承認の件
- 第4号議案 会員入退会承認の件
- 第5号議案 議事録署名人選任の件

⑤ 議事

峰尾事務局長より「理事総数15名中本人出席14名、委任出席1名で本理事会は成立した」旨報告理事長が議長となり議題に入った。

Ⅰ 報告事項

- 1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

● 関東事業支部（山下）

1. 組織委員会

9月12日本部国際・交流委員会 Meet the world ドイツ編を実施43名の参加があった。その他 JAPAN TEX2003 インテリアトレンドショーワーキンググループ活動開始。

2. 情報委員会

7月14日定例会議実施。会員ワーク集ワーキンググループ第1回会議を9月27日実施。及び関東ホームページ完成9月1日立ち上げ。

3. 事業推進委員会

6月13日旧朝吹邸見学及び定例会実施。6月11日定例会実施、9月20日横浜東山田資料館見学及びコロッケパーティー実施。

JID 関東パートナーズ（賛助の会）6月16日、8月1日、9月4日実施、企画の大小にかかわらずスタートし、テーマのタイトルを今後提案する。マイシリーズ企画「江戸から21世紀へ」をテーマに東京下町の各種伝統工芸を調査、シリーズ化する。

4. 研究活動委員会

スケルトンインフィル研究会を8月8日、8月29日に実施12月までにそれぞれの案を検討する。

5. ユース統括委員会

AIDEC ショールーム見学、その他 IFFT 出展計画を実施中、又6月21日に江戸指物見学会を実施。支部長合同会議（8月11日）に佐藤支部長出席と報告。

●中部事業支部（熊谷）

5月17、18日平成15年度支部通常総会及び高山作家交流実施。5月28日臨時支部総会実施。7月19日7月度例会、支部ホームページ作成について思案作成。

8月23日8月度例会を実施

支部ホームページ作成について内容デザイン検討。明治村展示について検討。その他伝統工芸（漆）とのコラボレーション等打合せ。

今後の予定10月8日～11日世界グラフィックデザイン会議参加協力。10月18日～19日名古屋デザインウィーク参加予定と報告。

●関西事業支部（八十）

1. 総務部会

5月31日平成15年度支部総会及び記念セミナー「英国ウエールズの子供達と絵画」を実施。その他「総合的な学習の時間におけるインテリア教育の可能性」経過報告と交流親睦会実施（木村理事長参加）。

7月14日かんげつ会。7月14日（財）国際デザイン交流協会へ清家支部長出席主催近畿経済産業局、各団体紹介及び主催者報告。8月8日臨時かんげつ会実施。

8月11日 JID 全国支部長会議実施。

8月17日、かんげつ会、出版事業ワーキンググループメンバーに八十理事の参加決定。その他8月20日第2回支部運営部会、8月27日支部選挙委員会実施。

2. 事業部会

8月1日第1回マーケットデザイン会合、同第2回9月3日（仕事を獲得するためのマーケットデザインをテーマに各会員の営業戦略発表）を実施。

3. 研究発表部会

5月20日、6月10日研究委員会実施。6月18日国立国会図書館特別見学会実施（KIPA 主催、JID 協賛）90名参加。その他9月9日教育研究委員会、教師用マニュアル作成の内容作り。

4. 大阪デザイン連合機構総会（6月20日）に清家、八十、山崎、疋田、佐々木参加、佐々木恵子副理事長がパネラー（JID 代表）参加者80名。

5. 臨時連携部会

6月30日実施、総務・セミナー委員会（IFI 理事長来阪セミナー）について協議。

今後の代表的予定として、IFI 理事長セミナーと親睦会（10月23日）、空間デザイン ATC にて11月上旬開催予定等報告。

6. 支部長会議報告

八十理事より報告、今後支部長会議報告の中で本部委員会に提案されたものは本部委員会で検討、理事会で決めるものは決める。今後の支部長会議での決定事項は報告と提案等を整理して提出していただくことを願う。

●九州事業支部（山永理事委任出席のため文書にて）

1. 例会、役員会の定期開催。

6月21日支部総会を木村理事長の出席を得てリバーウオーク北九州で実施及び北九州例会を21日～22日実施、門司港ホテル、門司港レトロ地区、巖流島、魚市場（カモンワープ）等見学。

9月13日役員会を賛助会員（株）アダルで開催、総会及び支部長会議報告、役員選挙、例会、交流会、インテリアデザイン展2003等について協議。今後10月17日大川例会と「2003住いの創造展」大川家具工業会主催を見学の予定。

2. 全国支部長会議に支部長出席。

3. 特別委員会主催「デザインセミナー IN FUKUOKA」の検討、テーマ「駆り立てるものは何か」をデザイン6団体による共催等を報告

●総務・組織委員会（秋山）

委員会5回実施（9月まで）

1. J-project について

本年度メイン事業として賛助会員企業との新たな関係構築に向けて、JID の財政基盤を強化。3月までのアクションプログラム作成、退会賛助会員及び新たにアプローチの企業等リストアップ。又正会員にアンケート実施、内容分析と企業訪問の準備。

2. ベネフィット・ワンの更新で本年度も継続。

3. 報酬基準の調査と、建築家の設計責任（保険）についても調査検討を行う。すでに JIA でのヒヤリングを実施、JID の単独加入は難しいが、海外などでは保険に入っていないと設計契約が出来ない等の問題もあるようなので今後研究すると報告。

●国際委員会 (川上)

1. 6月10日委員会開催、第2回、第3回 Meet the world 計画及び実施検討。第2回講師をエルコート社の Mr.Schwartz 氏に決定、9月12日実施44名参加。第3回を現 IFI 理事長 OLLE ANDERSEN 氏に決定、10月16日スウェーデン大使館で実施予定、尚東京開催はスウェーデン大使館のご厚意により開催中の「スウェーデンスタイル」の一環としてプログラムに入れられることになった、又募集人員は100名を予定。
2. 本部委員会企画事業推進に関する支部との任意意見交換会開催の呼びかけを行い、9月16日に実施意見交換を行った。
3. 2003年12月1日～2日開催の第21回 IFI 総会 (インドムンバイ市) に中川帛子委員長派遣内定 (第2号議案で決定予定)。その他 IFI 総会/国際会議参加の団体ツアーの企画を検討中。
4. IFI の国際会議派遣は複数の派遣が好ましい、予算面で検討してほしいとの要望あり。又国際会議出席に関し語学の問題があるが、今後通訳をつけることも検討の余地あり。その他報告会をしてほしいとの意見あり。

●交流委員会 (川上)

IPEC21-2003に関し、JID 主催のセミナーを予定、講師を喜多俊之氏に依頼承諾を得た。IPEC 運営のデルファイ研究所がセミナーを取り仕切る。又 JID 会員にはデルファイ研究所より IPEC 招待券を発送。その他展示会場に、JIPA、JID、JCD、インテリア産業協会の共同 PR ブースが用意され、出展の打診があり、JID 本部教育・研究委員会 A がパネル出展を検討。

●情報委員会インターネット (吉良)

1. ホームページリニューアルと JID メールアドレス提供を含めたインターネットまわりの運営、管理の徹底。JID メールアドレスは全会員の約60%に提供済み。今後印刷物/FAX 通信に変わるツールとしてコストダウンも見込んだ活用方法も考えたい。
2. 本部と支部との情報連携の仕組みづくり。又各支部のインターネット担当者が決定。
3. インターネットに関する委員会の実働人員の充実を検討。
4. 吉良理事より安松一雄委員長業務多忙のため、委員長を辞退したいとの要望で、久原真人委員を委員長代行としてきたが今後委員長としたいとの申し出があり、理事会が了承。その他ホームページが一部見にくいとの意見があり改善の方向で検討修正。

●情報委員会 JID ニュース (吉良)

2003 / 04 ~ 06(221号)9月5日発送済み。今回より DTP (編集) 業者を変更、これを期にレイアウト

デザイン変更も行った。その結果約10万円のコストダウンを達成。今後の予定として2003 / 07 ~ 09 (222号) 発行を12月初旬に予定。人員を確保サポート体制の仕組みづくりを検討。

●教育・研究委員会 A (小宮)

2001年より大阪教育大付属平野中学校、東大阪市立岩田西小学校、京都市立紫野小学校で実験実習を重ねてきて新しい発見、興味深いデータを得る事ができた。今後今年度中に指導用マニュアル (手引書) の作成を予定、予算等の検討を行いたい。又支援の得られそうなところを模索する。

●教育・研究委員会 B (須長)

継続テーマについて、若い独身女性日本人と英国人が住いをシェアし、工夫をしながら暮らしている状況を見学、検討を重ねる。出来れば年末頃までにまとめ、年度末までに概要を JID ニュース等に掲載予定。その他アンケートを取ることも良いとの意見があった。

●教育・研究委員会 C (山本)

OZONE のユニバーサルデザイン期間に合わせ、Humanizing Design をテーマに高齢者共生住宅「グループリビング」を考えるセミナーを、講師西條節子氏で11月25日 OZONE セミナールームにて実施決定。

●デザイン保護委員会 (佐々木)

1. 6月11日委員会開催、専門家と考える「知的財産権」セミナー会計報告とテープ起こし。日本デザイン団体協議会デザイン保護委員会の著作権法改正について、デザイン保護研究会の素案に沿う事に決定。
2. 6月17日日本デザイン団体協議会デザイン保護研究会に出席、著作権法改正への要望書作成及び「創作デザイン寄託等」講習会期日決定。
3. 7月24日 (社) 日本デザイン保護協会「創作デザイン寄託証明等」講習会に参加。
4. 9月24日第3回デザイン保護研究会に参加。その他デザイン保護協会への参加 (寄託等) D-8は拒否された等報告。プロダクトは良いがインテリアに関してはあまりメリットがないと思われる。

●選考委員会 (岩倉・森谷)

委員会を3回行い、JID 賞のあり方を検討した結果が報告された。主な内容は

1. JID の重点事業として位置付け、ビエンナーレとし隔年ごとの実施とした。
2. 賞の対象として従来の学生賞を廃止し、新たに新人賞を設けた (年齢制限として満35歳まで)。
3. 選考委員の役割を明確にして、最終審査は JID 全会員の代表して、理事長を審査委員長とし、他に外部審査員4名で行う。
4. その他平成16年度より新選考委員になるため、新旧合同会議等で2004年募集、2005年受賞作品発表

等詳細をつめる。

2) 平成15年度収支状況報告（8月末現在）について事務局長より報告。

3) その他

1. (株) リビング・デザインセンター 会議室使用料について事務局長より説明。

2. 会員名簿作成について及び協会財務運営資金繰りにについて事務局長より説明。

3. 平成15年度新旧役員合同会議、平成15年度第3回理事会及び平成16年ニューイヤーズパーティの日程について平成16年1月22日（木）に決定。

理事会 10：30～13：00

新旧役員合同会議 14：30～17：30

ニューイヤーズパーティ 18：30～20：30

いずれも予定

II 議題

第1号議案 役員選挙における役員選出数決定の件

役員選出数（案）について討議、理事総数11名とし、支部配分は規定により関東7名、中部1名、関西2名、九州1名とする。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

第2号議案 IFI 派遣人事の件

IFI 総会（インドムンバイ市）に対し中川帛子国際委員会委員長を派遣する。議長は承認を諮り異議なく承認された。

第3号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記4件について説明、議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

○大川総合インテリア展「華胥の夢博2003」

平成15年10月3日（金）～5日（日）

主催（財）大川総合インテリア産業振興センター

後援・継続

○JIDA フォーラム「日本の産業力は新境地を目指す」

平成15年10月6日（月）

主催（社）日本インダストリアルデザイナー協会

後援・継続

○「第9回木造建築物に関する研究会」

平成15年10月15日（水）

主催（財）日本住宅・木材技術センター、
日本集成材工業共同組合

後援・継続

○「第18回全国高等学校インテリアデザイン展」

期間 平成15年9月1日～10月5日

（JID 理事長賞）

主催（財）大川総合インテリア産業振興センター

賞状交付・継続

第4号議案 会員入退会承認の件

事務局長が下記1件について説明、議長は承認を諮り、異議なく承認された。

正会員退会（1件） 1206 増澤信一郎（関東）

第5号議案 議事録署名人選任の件

議長は秋山修治、岩倉榮利両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

（社）日本インテリアデザイナー協会 平成15年度第2回理事会に関し、定款第26条に基づき、議事経過及び議決事項を記すため、議長と議事録署名人が記名捺印する。

議長 木村戦太郎

議事録署名人 秋山修治

議事録署名人 岩倉榮利

JID NEWS

関東

関東事業支部の活動について

関東事業支部・支部長 佐藤 健一

関東事業支部では昨年からいくつかの新しい活動をスタートしていますが、それらを含めてここに関東の支部活動をお知らせしたいと思います。

関東事業支部情報委員会では支部ホームページを準備してまいりましたが、9月に完成し、本部ホームページとリンクしております。本部ホームページの中の関東をクリックしていただければ、アクセスする事ができます。是非1度ごらんいただき、ご批評をお寄せいただければ幸いです。

関東事業支部の中核と言える支部事業推進委員会では本部国際・交流委員会と実験的に共同事業として二つのセミナーが企画され、ドイツのエルコ・トートー社照明セミナーでは定員30名に40数名が、またスウェーデン大使館に於ける『スウェーデンのデザイン』セミナーでは90名余りの参加者という盛況振りでホッといたしました。

共同事業は本部委員会と支部委員会のあり方や関係性を考えさせるきっかけ作りにもなり、有意義であったと感じています。

昨年10月に立ち上がったJID関東パートナーズでは賛助会員の方々のショールーム見学を兼ねて、持ち回りの賛助会員の方々の提供していただける場所で会議を重ね、具体的な企画内容を煮詰めて白熱した議論を交わしている状況です。

この他にも日経ニューオフィスデザイン賞を受賞したオフィスの見学会も企画、実施され、『江戸から21

世紀東京』をテーマに今に残る江戸から続く伝統工芸や技術の見学会・交流会も計画されています。

支部事業推進委員会ではユニークな企画もあります。それはJID会員の栗原満直氏館長の東山田郷土資料館見学と500個にもなるコロッケを食する盛大なコロッケパーティで、会員のエネルギーな行動の中、にぎやかで楽しいパーティが行なわれました。

一方、関東ユース統括委員会ではユースメンバーに好評だった国際家具見本市の出展が昨年に引き続き行なわれる事に決まっております。委員長等の努力も実って、ユースメンバーも徐々に増え、11月の見本市出展に向けて作品等を準備しているところです。

研究活動委員会のスケルトンインフィル研究会では14年度の事例収集

等のまとめを終え、具体的な平面図を元に12月をメドに、委員各々のイメージするプランニングを各自検討している段階にあります。

以上、総てではありませんが、関東事業支部の活動を報告させていただきました。今後は4支部がそれぞれに連係するような企画が考え出せたら協会の支部活動も、より活発になるのではないかと考えております。

東山田・縄文の丘交流会報告

関東事業支部
事業推進委員 泉 修二

大正の末年から昭和の始めにかけて、コロッケの歌が流行ったことがある。リピート部分だけ憶えているのだが、「・・・今日もコロッケ、明日もコロッケ、これじゃ年がら年中コロッケ」というのだった。何とも即物的だが、昭和一桁代の私が知っているのだから恐らくヒット曲だった筈だ。

ソースを飯に掛けただけの一皿がソーライスと銘打って宝塚のレストランで売られた頃からみると、コロッケは日本の近代化と洋風化のイメージの中で最も大衆に受けた逸品だったのだろう。

それからおよそ80年、変遷のなかで洗練され続けたコロッケだが、近頃は「コロッケ学会」が出現するやら、これをネタに交流会まで開かれる始末である。上層階級も庶民も関係なく、日本人に愛される存在として定着した証拠であろう。

そんなコロッケを中心に、豚汁やら、様々な食材、懐かしのラムネまで、盛り沢山に去る9月20日交流会が開かれた。関東事業支部と本部の組織・交流委共催である。

舞台は一昨年に続いて横浜・縄文の丘（栗原満直会員宅）。敷地内に3棟に分かれた郷土資料館があり、縄文と近世、近代の品々が栗原さんの愛着以上に貴重な資料として処狭しと陳列されている。

その中庭だから、当日雨とはいいながら少し出来過ぎの設定だったと言えよう。おまけに、名誉会員・内田正雄さんのアコーディオンとウクレレ、久原真人会員のトランペットが加わったから成りゆきは予想できる。ユース会員も含めた約40名の参加者を飲み込んだ縄文の丘が、夕方まで盛会以上の盛り上がりになったのも不思議ではない。知的好奇心の満足も、常日頃の欲求不満のはけ口も、共に混然とした雰囲気だったといえようか。

コロッケの主を標榜する長岡さんや、作業分担を受けた各委員の方々の仕事コロッケだけでも500個を越えたと聞けば、其の労力には脱帽せざるを得ない。しかし会場では、作り手と受け手の区別は融通無碍になっていたように思えた。

公共性を標榜する協会活動は、基本的には有効なトータル性を必要とするが、こんな交流会も極めて重要だといえよう。労力を惜しまずに投入して下さった主催の委員の方々は勿論、場所の提供や会を盛り上げてくださった方々にも会員の一人として、報告と共に心からのお礼を申し上げたい。

JID NEWS

中部

明治村作品展

中部の特別展（中部会員のみの実験的な企画）

中部事業支部
大瀧 隆

榑川村ものづくり探訪記

中部事業支部
小宮 三辰

2003年秋、ようやく涼しくなった9月の27日、真っ青に晴れ上がった青空のもと長野県の榑川村を訪れた。

漆のことを勉強しようと JID の仲間 12 人である。榑川村村長の田中さんや漆の振興に励んでいる安藤さん、萩村さんに漆のことや漆蚕業の現状の説明を受け、熱の入った質疑応答が交わされ、なんとなく漆の様子が理解されたのではの状态。

中仙道のほぼ中央の奈良井の宿をもつ榑川村は村民 4000 人、うち 200 人が漆産業に関わっている。漆の伝統工芸士が 70 人おられ、ほとんど古くから漆一色と想像できる。

村の小学校では給食に漆の食器を使っているそうだ。小さい時から漆に自然に親しんで、馴染んで、なんと素晴らしいことか。漆食器は自動洗浄に十耐え得るそうだ、これも素晴らしいことだ。漆の塗師の工程や沈金・蒔絵の技法の見学など盛り沢山の学習に加え漆工芸館の視察、漆の振興センターでの懇談など盛り沢山のスケジュールを精力的にこなし、ヘトヘト、クタクタ、頭の中は漆でいっぱい。

でもそのほかに木曾の地酒一かけはし、奈良井の宿の蕎麦、榑川村の青緑深き山々の自然と満喫するもののいかに多きか。

収穫。収穫。大収穫。



奈良宿を散策 見事な秋晴れ！大満足

「漆・和紙・自然素材で造る伝統工芸職人さんとのコラボレーション」企画

第二回 JID 『F. L. ライトとの対話』展が、平成 16 年 3 月下旬、博物館明治村において開催されます。

エントリーされる方々は出展に向けて走り出されている事と思います。

近年、『日本の伝統産業をもう一度見つめなおしてみよう！』なる動きが各産業地場にて活発化してきているようです。

小生、縁あって『漆』の伝統に触れる機会が有り、度々産地に出向いては工房職人、村役場の方々とお話しさせていただいてまいりました。

『漆』の持つイメージを逆に使い手側に聞いてみようと『お椀、高価、扱いづらい』の回答が大半。

『漆塗り』をもっと消費者の身近なものに、もっとポピュラーなものにと強く考えます。

『ライトとの対話展』もあり支部の事業の一環として『漆、和紙、自然素材で造る伝統工芸職人さんとのコラボレーション』と銘打って去る 9 月 27 日（土）JID の仲間 12 人にて長野県榑川村を訪ねました（小宮さん／別記）

役場会議室にて村長さんも交え、J I D として『伝統産業に対し果たす役割等々多くの意見交換がなされ改めてデザインの重要性を認識いたしました。今回の展示会も昨年に比べより一層充実したものになりそうです。



榑川村役場にて田中今朝春村長さんを表敬訪問

■中部事業支部ホームページやっとできました。（10 月末頃 UP 予定）

一度見てください。http://www.jid-chubu.org

総務委員会 木辺智子

JID NEWS

関西

第二回支部長会議報告

関西事業支部長
清家 淳一

第二回支部長会議を平成15年8月15日(月)午後2時から、大阪の私の事務所で開催いたしました、暑い最中、支部長の参加をいただき有意義な会議が進行致しました、午後6時からはビールやワインの差し入れを片手に今後の組織改革や業務改革ビジョンの話題に花をさかせ、JIDの在り方や支部の近況なども楽しく語らい、尽きることのない話で盛り上がりました。

【参加者】

関東事業支部：佐藤 健一
中部事業支部：安藤 清
九州事業支部：飯田 一博
関西事業支部 理事：小宮 容一（懇親会より出席）
担当理事：八十 常充
副支部長：山崎 晶
総務部会長：山本 紗代子

【会議内容】

1. 各支部事業計画、推進事項および懸案事項報告略

2. 「ワーク集」について…佐藤関東支部長より企画内容の提示。

報告事項

①関東事業支部編集、本部発行に決定（H15・第1回正副理事長会議決定）。

4 支部決定事項

②支部からも委員としてワーキンググループに参加、支部の希望なども盛り込んだワーク集にする。

3. 本部理事選挙と支部役員選挙について

報告事項

①関西事業支部）8月20日開催支部運営部会で選挙監理委員会発足予定。理事・支部役員同時選挙 遂行の準備進行中。

4 支部決定事項

- ①選挙費用削減のため中部、九州、関西事業支部は理事会選挙体制に同封。
- ②関東事業支部は方式上同時選挙には無理があり、又会員からの意見として理事会選挙前に行う。

4. パートナーズ関東について

報告事項

- ①発足会・実務レベルでの会議が平成15年6・8月に実施、以下の中から9月に具体化。
 - ・賛助会事業同士のコラボレーション+正会員のデザインコラボレーション展覧会開催
 - ・コンペ実施
 - ・正会員にテーマを決め展示会開催

4 支部決定事項

- ②JID パートナーズ（仮称）」としての組織を本部総務委員会に提案する。
- ③本部情報として賛助会の支店又は営業所担当者を任命し、支部にフィードバックすることを本部業務にする。（賛助会企業に対し支部で何ができるかを明示することを可能にするため）

5. 関東セミナーについて

報告事項

- ①本部スリム化の意義と支部活性化の目的と意義の意思統一が為されていない。

4 支部決定事項

- ②本部事業と支部事業の明確化が必要（特に関東支部との切り分けを明確に）。

オーレさん講演会 at 大阪

関西事業支部
広報委員会委員長 塚田 眞佐子

10月18日朝、伊丹空港着のオーレさんをつかまえて講演会の長い一日が始まった。ことの始まりは、大阪での国際デザインコンペの審査委員として来日されるにあたり、まず東京入りされJID主催によるセミナー開催との報をJID 関東よりいただき、大阪に来られるのなら関西でもぜひ、というのが発端だった。

7月初旬から始まった講演会プロジェクトは、途中でスケジュールの再確認というハプニングも乗り越え、爽やかに晴れ渡った大阪にお迎えし、夜半ホテルまでお送りし無事終了できたことはうれしいばかりである。

清家支部長や安藤副支部長、山田セミナー委員長のご尽力で、インターオフィスの洒落た会議室をお借りし、楕円形に30名ほどの聴衆が集ったのもアットホームな雰囲気をかもし、オーレさんご自身も少人数ならではの、直接思いが伝わった点を満喫された。（ご本人の弁）ボランティアで通訳をお願いしたペリー史子さんの労に感謝する次第である。鈴木副支部長きもいりの、町家情緒を残す老舗での鍋を囲んだ懇親会も大阪らしさが伝わったのではと思いたい。

講演は、様々な美しい写真で風土や住まいの文化を語られたあと、それがインスピレーションとなった作品の数々、またインスピレーションをとどめ置くスケッチ、ワークショップ風景なども紹介され、最後は照明器具のラブリーなムービーで締めくくられた。

今回は川崎浩、徳島から新居猛の両名誉会員も駆け付けられ、また懇親会からはオーレさんとは旧知の喜多俊之会員も加わり華やかなセミナーと懇親会となった。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



オーレさんを囲んだ懇談会

小宮容一氏 個展開催のこと

関西事業支部
副理事長 山崎 晶

2003年8月26日から30日まで、大阪梅田駅前第2ビルギャラリー“Water Lily”でJID理事・小宮容一さんが個展を開きました。小宮さんの達筆(?)ぶりは著書・数々の絵本(?)でよく世間に知られているところ。この度は改めて何を見せてくれるのかと興味深々、オープニングパーティーにはJIDはじめ、JCD、KIPA会員諸氏約50人が参集、広くもないギャラリーは超満員。肝心の絵を見る隙間もないほどの盛況でした。インテリアデザイナーが本業以外の作品を見せてくれるのは楽しいことで、本人の人柄の一面を知る恰好の機会。そこでこの度の作品は、氏の心の表現であろう抽象の世界。閉会の挨拶のどなたかが”ここに小宮さんの宇宙感を見ることができる・・・”などとうまい言をおっしゃいましたが・・・。自作の発表をお楽しみに。

マーケットをデザインする

関西事業部会部会長
木谷 賢治

“仕事を獲得する為に何をすべくマーケットをデザインするのか？”と題し、8月より月1回（全6回）応募頂いた16名のメンバーにて本音を熱く！語り合い、進めています。

まず、メンバーの職域・職性と目的意識の明確化したうえで、ガイドラインとしてマーケットの構築、仕事の発見とマネージメント、結果として戦略的ツールができればと思っています。

4回目の会合からは外部から若手ゲストをお呼びして、異なる年代の思考の理解しジェネレーションギャップを明確にしていきます。

我々はマーケットに対し「何を可能にできるか！」
マーケットは我々に対し「何を可能にしてくれるのか？」

このことを見極めることが出来ればひとつの成功かと、そしてJIDの活性化にもつながることと思っています。

2003/7・8・9

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (2003年通巻222号)

2003年12月1日発行

発行所／財団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人／木村戦太郎

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

TEL. 03-5322-6560

FAX. 03-5322-6559

企画・編集／本部情報委員会 JID News 委員長 石川 尚

製作／石黒画房